

第七十四回
帝國議會
貴族院

船舶建造融資補給及損失補償法案特別委員會會議事速記録第二號

昭和十四年三月二十二日(水曜日)午前十一時十五分開會

○委員長(伯爵後藤一藏君) ソレデハ只今

カラ前回ニ引續キマシテ委員會ヲ開會致シマス、商工大臣ハ多分十一時頃手ガ空イテ此方ニ出デニナルダラウト思ヒマス、ソレカラ遞信大臣モ都合ノツキ次第此方ヘオ出デニナルコトニナツテ居リマス、ソレカラ朝鮮政務總監ハ、只今多分直グニオ出デニナルノデヤナイカト思ッテ居リマス、ソレデアリマスカラ、其ノ方々ノオ出デニナル前ニ何カ御質疑ガアリマシトラバ、管船局長ガオイデニナリマスカラ、御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○男爵井上清純君 私ハ成ルベクナラバ、

遞信大臣、商工大臣御列席ノ上ニ於テ質疑ヲシタイト思ッテ居リマスガ、時間ガ餘リ切迫シテ居リマスカラ、管船局長ヲ通ジテドウカ必要ナ分ハソレト大臣ニオ達シテ願ヒマシテ、私ノ質問ハ此ノ産業報國聯盟ニ關聯シテ、少シ思想ニ係ツタ所ノ質問デアリマス、此ノ三法案ハ必要ナ法案デアリマシテ、本案ニ付テハ私ハ異存ハナイノデアリマス、ケレドモ此ノ法案ヲ執行スル上ニ於

キマシテ、産業報國聯盟ト密接ナル關係ガアルト思ヒマスカラ、此ノ點ニ付テ質疑ヲシタイト思ヒマス、本案ニ依リマシテ商船隊ガ豫定通りニ出來ルト假定シマシテモ、船員ノ養成ト云フコトハ餘程困難ナルモノガアルト思ハレマス、其ノ數ハ揃ヒマシテモ、恐ラクハ十九年頃ニハ豫定ノ人員ハ得ラレルカト思ヒマスケレドモ、其ノ多數ノ海員ヲ養成スル上ニ於キマシテ、餘程懸念ナ點ガアルカト思ヒマス、船員トシテノ道德的教養、就中思想ノ指導ニ於テハ頗ル缺クル所ノモノガアリハシナイカト懸念ニ堪ヘナイノデアリマス、ドノ國家デモ同様デアリマスカラ、海上勞務者ト云フモノハ、常ニ赤化ノ對象物ナルノデアリマシテ、我が國ニ於キマシテハ、此ノ點殊ニ深甚ノ注意ヲ缺ク時ハ、恐ルベキ結果ヲ招來スルノデハナイカト思ヒマス、船ト云フモノハ大洋ニ出テシマヘバ、一ツノ獨立王國トナルノデアリマスカラ、上下ノ秩序の團結ト云フモノハ殊ニ必要ニナツテ來ルノデアリマス、是ハモウ軍隊以上ニ必要ニナツテ來ルダラウト思ヒマス、今次ノ事變ニ於キマシテ、軍隊ノ輸送、或ハ軍需品ノ輸送、掃海ト云

フヤウナ困難ナル事業ニ多數ノ商船隊員ハ服シテ居ラレマシテ、赫々タル武勳ヲ揚ゲラレツ、アルコトハ、國民トシテハ最モ慶賀ニ堪ヘナイ、又感謝ニ堪ヘナイ次第デアリマス、併シナガラ長イ間外國ノ惡イ海員ノ風ガ染ミ込メ居ルト云フコトモ亦否定ハ出來ナイノデアリマス、今尙舊習、舊弊ガ一掃サレナイデ居ルト云フ現狀デハナイカト思ヒマス、例ヲ擧ゲレバ幾多アルヤウデアリマスカラ、其ノ邊ノ所ハ漸次ニ改善サレツツアルト云フコトヲ考ヘマシテ、暫ク具體的ナ例ヲ差控ヘルコトトシマスガ、殊ニ現今ハ國際聯盟ノ勞働局カラ委託シテ居ルノデアリカラ、其ノ方面ニ對シテモ餘程心配ハ薄ライデ居リマスケレドモ、マダ此ノ下廻上ノ思想、社會主義的ノ思想ガマダ多分ニ殘ッテ居ルト思ヒマス、然ルニ昨年七月三十日デアリマスカ、官民一致ノ熱意ニ依ツテ、協調會ヲ主體トシテ設ケラレマシタ産業報國聯盟ト云フモノハ、其ノ後内務、厚生兩省ノ絶大ナル支援ヲ受ケマシテ、今ヤ各會社、工場内ニ急速ニ新設サレツ、アルノデアリマス、常識的ニ考ヘマスカルト勞資調整方策ガ完全ニ行キツ、アルヤウニ考ヘラレ

テ居リマスカラ、果シテ右ノヤウデアルカ、此ノ點ニ付テ御尋ヲシタイト思ヒマス、併シ此ノ産業報國會ト云フモノガ、矢張り海上部隊ニモ及ンデ行クノカ、此ノ點ニ付テ先ヅ管船局長ノ御答ヲ得タイト思ヒマス

○政府委員(伊勢谷次郎君) 只今ノ御尋ノ産業報國運動ニ付キマシテハ、只今仰セノ通り昨年八月二十四日ヲ以チマシテ、内務、厚生兩次官ヨリ各府縣長官ヘ通達ガ出マシテ、又關係各省ニモ此ノ趣旨ニ則ツテ、勞資協調、國難打開ニ邁進セラレタイト云フ御話ガアツタノデアリマス、而シテ海運關係ニ於キマシテモ、斯カル運動ハ時節柄極メテ重要デアルト考ヘテ居ツタノデアリマスカラ、此ノ聯盟ヨリ直接ニ海運會社ノ大會社ノ方面ニハ御話ガアリマシテ、現ニ郵商兩社ニ於キマシテハ之ニ則リマシテ、海上方面ニ於ケル勞資協調ノ社内ニ於ケル會ガ出來テ參ッテ居ル狀況デゴザイマス、當局ト致シマシテモ時局ニ鑑ミマシテ、極メテ重要ナル方策ト考ヘマシテ之ヲ支持致シテ居リマスカラ第デゴザイマス

○男爵井上清純君 只今ハ海上部隊ノ方面ニモ益、ソレヲ設ケラレル方ガ宜シイト云

フ方針ヲ進捗サレテ居ルト云フコトデアリマス、私ハ少シク見解ヲ異ニシテ居リマシテ、ドウモ産業報國聯盟ト云フモノニ付キマシテハ多大ノ疑問ヲ有チマシテ、色々産業報國聯盟カラ發行サレタ所ノ叢書ヲ昨日調べテ見タノデアリマス、サウスルト私ハ杞憂シテ居ル通りニ、矢張り憂フベキ點ガ多々含マレテ居ルト思ヒマスカラ、御參考迄自分ノ意見ヲ述ベサセテ戴キマス、此ノ危險性ハ思想上カラ見タ危險性、ソレハドウ云フコトカト云フト、ドウモ皇道精神ヲ基調トシテ居ラナイノデアリマス、ドウ云フ精神ヲ基調トシテ居ルカト云フト、横斷的思想ニ依ル方便主義ヲ基調トシテ、勞資ノ協心戮力ヲ求メテ居ルヤウデアリマス、斯ウ云フコトデアッタナラバ、平時ノ場合ニ於テハ宜シイケレドモ、一タビ難關ニ逢著シタナラバ土崩瓦解シテ、下級者ノ放恣專橫ノ結果ヲ貽スト云フコトニナリマス、ソレカラ行政權ノ一部移讓ノ危險ガアルト思ヒマス、遞信省ト云フ監督官廳ガアルニ拘ラズ、別個ノ官民協同體デアル所ノ産業報國聯盟ト云フモノガ、ソレハ別個ニ指令シマスカラ、官憲ノ權威ト云フモノハソレダケ失墜スル譯デアリマス、是ハ一會社ニ例ヘテ言ッタナラバ、會社ニハ矢張り定款ガ

アリ色々規約ガアリマス、其ノ外ニ産業報國會ト云フモノガ強制的ニ設ケラレマスルト、又恐ルベキ下剋上ノ弊風ガ社内ニ瀰漫スルハ想像ニ難カラナイ所デアリマス、歴史的ニ事實カラ見タ危險性、熟帝政「ロシヤ」ノ崩壞時ニ於ケル勞兵會ノ發達セル内情ヲ檢シマスルノニ、矢張り海上部隊ノ方カラ崩レテ來テ居リマス、彼等ハ我が國ニ於ケル産業報國會ノ如キモノヲ組織シ、陽ニ政府ニ協力スルガ如キ態度ヲ持ツ、陰ニ下級者ノ結束團結ヲ促シ、勞兵會勢力ノ地盤ヲ築キ上ゲ、其ノ實力成ルニ及ンデ有無ヲ言ハセズ政權ヲ奪取シテ、共產革命ヲ完成セルモノデアリマシテ、固ヨリ日本ノ國ノ國體ハ諸外國トハ比ブベクモナク、根本的ニ天地霄壤ノ差ハアリマスガ、又「ロシヤ」ノ實例ニ鑑ミ、之ヲ他山ノ石トシテ大イニ猛省ノ必要ハアラウト思ヒマス、階級打破、惡平等ノ思想ガ含マレテ居リマス、階級打破ノ思想ハ本聯盟ノ刊行物中隨所ニ現レテ居ルコトハ見通シ難イ所デアリマス、其ノ一例トシテハ此ノ第三輯即チ勞働者ト産業報國運動ト云フ書物ノ十四頁カラ十五頁ニ互リマシテ、何ト書イテアルカト云フト、ヤレ事業主ノ利益取分ガ從業員ノ賃銀ニ比較シテ餘リニ多過ギルトカ、ヤ

レ勞働者ハ十時間モ十二時間モ働イテ居ルノニ、社長ハ十一時頃出勤シテ二時頃歸シテ行ッデシマウト、斯ウ云フヤウナコトヲ申シテ居リマスガ、斯クノ如キ問題ハ是ハ個々ノ人ノ問題デアリマシテ、勤勞協同體トシテノ組織機構上ノ問題デハナイコトハ申ス迄モナイノデアリマス、ソレヲ此ノ産業報國聯盟カラ出タ所ノ叢書ノ中ニ書イテアルノデアル、階級打破ノ思想デアリマス、而モ斯ウ云フコトモ書イテアリマス、斯カル問題ハ十分ニ反省理解スルコトニ依ッテ、自ラ解決サレル所ノ問題デアルト申シテ居リマス、而モ尙斯ウ云フコトガ書イテアリマス、勤勞國民トシテノ資格ハ總テ平等デアルト書イテアリマス、之ヲ讀ム者ヲシテ御互ガ反省シ、理解シタナラバ、當然共產主義の平等ノ待遇ヲ受クベキガ當然ナルガ如キコトヲ臭ハシテ居ルノデアリマス、資本ニ對スル態度ハドウ云フ態度ヲ有ッテ居ルカト申シマスルト、斯ウ云フコトガ書イテアリマス、第一輯ノ三十五頁ニ、第一輯ト申シマス、産業報國運動ニ付テト云フ叢書デアリマス、社長モ一定ノ報酬ヲ受ケ、其ノ職能ニ於テ働ク一人ノ勤勞者デア

ル、中略、階級闘争ノ觀念ハ、勞働ニ對スル考ヘ方如何ニ依ッテ決定スルノデアアルカラ、此ノ點ハ特ニ強調シナケレバナラス、又曰ク、資本ノ弊害ノ除去ニ當テ、本運動ハ先ヅ階級闘争ノ手段ヲ根本的ニ排斥シ、精神的理解ノ下ニ全國民一致協力シテ、有ラユル角度カラ産業發展、國家興隆ノ使命ヲ達成セントスルモノデアアル、是等ノ意味ヲ冷靜ニ觀察スルナレバ、表裏共ニ實ニ怖ロシイ思想ニ依ッテ充サレテ居ルコトニ氣ガ付クノデアリマス、此ノ運動ガ精神運動ノミニ局限サレテ居ルナラバマダシモデアリマスガ、福利増進其ノ他ノ項目ガアル以上、當然起リ來タル惡影響ハ避ケ得ラレナイト思ヒマス、果シテ斯ウ云フ運動ガ艦船ニ瀰漫シテ、ソレデ宜イト考ヘラレルカ、之ヲ一船内ニ具體的ニ説明スルナレバ、或ハ工場内ニ具體的ニ説明スルナレバ、先ヅ上級者ガ下級者ノ申出ニ對シ、眞ニ大義明分ニ即シテ之ヲ匡シ得ルヤ否ヤ、ソレダケノ思想的教養ガ上級者ニナカッタ場合ニ於テハドウスルノカ、又假ニ上級者ニ其ノ値ヒスルダケノ思想教養ヲ以テ、下級者代表ノ誤レル申出ヲ一々拒絶シ得タリトシテモ、代表者ハ默ッテ引下ガル代リニ、上級者ト當然衝突ガ起リマス、斯クノ如キ機關ハ海員ノ教育機關デナクテ、階級闘争激發ノ機關トナル、船ノ中ニ産業報國會ト云フモノヲ

作ルコトヲ許シタラバ、必ズヤ爭議ノ激發トナリマス、第三輯第一項ニ斯ウ云フコトガ書イテアリマス、何ト云フデモ多數デア
ル労働者ガ運動ノ土臺デアルコトヲ自覺ス
ルコトガ必要デアルト斯様ニ申シテ居リマ
ス、多數ノ労働者ガ土臺デアルト云フノデ
アリマス、眞ニ勤勞者ニ依ッテ實權ガ握ラレ
ルト云フ時ガ來ルナラバ、ソレハ怖ロシイ
コトト申サナケレバナリマセス、ソコカラ
國家ガ亂レマス、海上ガ亂レマス、報國ド
コロノ騒ギデナク、國ガ亂レテ來ル原因其
處ニアルト思ヒマス、尙申上ゲナケレバナ
ラスコトハ、社會民主主義ト云フモノガ多
分ニ含マレテ居リマシテ、其ノ民主主義ト
云フ言葉ハ耳ニハ優シク聞エマスケレドモ、
實ハ共產主義ト議會政治トノ妥協デアルト
言ハレテ居リマス、社會民主主義ヲ突キ詰
メテ行ツタラバ、結局ハ共產主義ニ迄至ル
ノデアリマス、本聯盟ノ根本思想ハ唯物思
想デアリ、階級打破ノ思想デアリ、其ノ構
成ニ至ッテハ社會民主主義的諸團體ニ、表
裏共相當根強ク食ヒ入ッテ居ルノデアリマ
スカラ、全ク危險ナ存在デアルト言ハナケ
レバナラス、而モ政府ハ之ヲ支持シ、一般
知識人亦常識的ニ之ヲ良キモノト考ヘ、益
之ヲ助成セムトシツ、アルコトハ、國家ノ

爲誠ニ深憂ニ堪ヘナイノデアリマス、一度
此ノ事ガ、今日ハ事變中デモアリ、又斯様
ナ非國家的ノ行動ヲ執ルナラバ、直チニ非
國民トシテ糾弾サレルコトヲ恐レマシテ、
今日ハ其ノ弊害ガ出テ居ラスヤウデアリマ
スケレドモ、而モ能ク調ベテ見ルト、労働
爭議ノ數ハ決シテ少クナイモノダト思ヒマ
ス、デ海上ニ於テ既ニ外國ノ惡イ影響ヲ多
分ニ受ケテ居ルノデアリマシテ、段々改善
サレツ、アルトハ言ヒマスケレドモ、何シ
テモ海上ノコトデアリマスカラ、至ッテ其ノ
豫防方策ト云フモノハ困難デアリマス、一
度日本ガ海上勞務者ニ依ッテ崩壞スルナレ
バ、一切ノ必要品ト云フモノハ絶エテシマ
ウノデアリマス、日本ニ來ルコトガ絶エテ
シマウバカリデナク、此ノ「アメリカ」アタ
リトノ思想的ノ聯繫ガ餘程怖ロシイモノガ
アリハセヌカト思フノデアリマス、此ノ點
ニ付キマシテ一ツ更ニ管船局長ノ御考ヲ承
リタイト思ヒマス

○政府委員(伊勢谷次郎君) 只今仰セノヤ
ウニ、海上ニ於ケル船員ノ活動ナルモノハ、
直チニ外國ト聯繫ヲ保チ得ル狀態ニアルノ
デアリマスカラ、危險ナル思想ノ豫防ノ
上カラ申シマシテ、只今仰セノヤウナ周到
ナ注意ヲ拂ッテ參リマスカラ、極メテ重
要ナコトダト考ヘテ居リマス、從ヒマシテ
其ノ方面ノ事柄ニ付キマシテハ、有ラユル、
出來得ル限りノ努力ヲ致シテ居ルノデアリ
マスルガ、幸ヒニシテ海員方面ニ於ケル良
キ自覺ト、又取締トニ依リマシテ、從前ア
リシ如キ惡風ガ非常ニ減ジツ、アルヤウニ
考ヘテ居ルノデアリマスルガ、其ノ點ニ付
キマシテハ仰セノ如ク極メテ重大ナ事柄デ
アリマスルガ故ニ、今後ニ於キマシテモ十分
ナル措置ヲ講ジテ、誤ナキヲ期シタイト考
ヘテ居リマス、而シテ産業報國聯盟ニ付テ
縷々御述ニナリマシタ事柄ニ對シマシテ、
私ハ此ノ場合ソレニ對シテ彼此申上ゲヨ
ウトスル意圖ハ毫モ持ッテ居リマセス、併シ
ナガラ産業報國聯盟ガ出來マシタ當時ノ其
ノ趣意ニ付キマシテハ、是亦御存ジノ通り
ニ、今ヤ我が國ハ未曾有ノ難局ニ當面シテ
居ルノデアル、此ノ難局ニ當面シテ、之ヲ
打開致シテ行ク爲ニハ、光輝アル日本歴史ノ
所謂皇室ヲ中心トシ、皇國一家ノ理想ヲ根
柢トシテ、萬邦ニ比類ナキ國體ヲ備ヘテ居
ル、之ニ基イテ全産業ト云フモノ、勞資ノ
協調ヲ圖ッテ行カナケレバナライ、若シ全
産業人ガ齊シク思フ國體ノ本義ニ潛メ、皇
國産業人タルノ自覺ヲ以テ産業報國ノ誠ヲ
盡スナラバ、期セズシテ産業ノ平和ヲ確保

セラレ、産業ニ家族的親和ノ情ハ横溢シ
テ、産業ノ發展ト國民ノ厚生トハ自カラ達
シ得ルノデアル、斯様ナ趣意ニ依リマシテ
其ノ聯盟ガ出來テ來テ居ルヤウニ伺ッテ居
リマス、而シテ其ノ綱領ト致シマスル所ノ
モノハ、國體ノ本義ニ則ッテ産業ノ國家的
使命ヲ體シ、全産業人ノ協力ニ依ッテ産業報
國ノ實ヲ舉ゲ、以テ皇運扶翼ノ使命ヲ完ウ
セムトスルコトヲ期スト云フノガ第一デア
リマス、其ノ第二ト致シマシテハ、産業ハ
資本、經營、勤勞三者ノ有機的ニ結合セル
一體ナルコトヲ確信シテ、事業者ハ至誠ヲ
以テ經營指導ノ任ニ當リ、従業員ノ福祉ヲ
圖リ、従業員ハ忠實ニ其ノ職分ヲ盡シ、勞
資一體、事業一家ノ實ヲ舉ゲ、以テ産業ノ
健全ナル發展ヲ期スト云フノガ其ノ綱領ノ
二デゴザイマス、而シテ當時臺閣ニ列シテ
居ラレマシタ所ノ有力ナル各閣僚ノ方々、
尙其ノ外國民ニ崇敬サレテ居リマス所ノ方
々ガ、或ハ顧問トナリ、或ハ理事長トナリ、
又其ノ理事ノ中ニハ當時ノ内務省ノ警保局
長、内閣情報部長、厚生省勞働局長等ノ方
方モ入ッテ居ラレルノデアリマス、故ニ私共
ハ此ノ聯盟ノ活動ヲ目シテ危險思想ナリト
斯クノ如ク認識ハ致シテ居ライノデアリ
マス、從ヒマシテ斯クノ如キ時局ニ於キマ

シテハ本當ニ各方面方協力一致シテ、眞ニ國難打開ノ軌道ニ向ッテ邁進スルコトハ、海上ニ於テモ同様デアルト考ヘマシテ居ッタデアリマスルガ、幸ニシテ日本郵船會社、大阪商船會社等ニ於キマシテハ、此ノ趣意ニ大體基キマシテソレ／＼會ガ出來テ居ルノデアリマスルガ、併シナガラ海上ニ於キマシテハ陸上ト自カラ事情ノ異ッタ點ガアリマスルノデ、産業報國運動其ノ儘ノ形式ヲ海上ニ持ッテ行キマスルコトハ、困難ナル事情モ存在スルノデアリマス、從ヒマシテ多少ノ變更ハ加ヘラレテ居ルヤウニ見受けラレルノデアリマスガ、併シ其ノ出來上ッテ居ル所ノモノヲ見テ參リマスルト云フト、會社ノ社長若シクバ副社長ガ其ノ首腦者トナッテ、サウシテソレ／＼組織機構ト云フモノガ出來テ、一ツノ會社内ニ於ケル勞資一體トナッタ會ガ出來テ居ルノデアリマスガ、其ノ事業ノ目的トスル所ハ、専ラ上下ノ親和ヲ圖ルコトヲ目的トシテ居ルノデアリマシテ、待遇問題等ハ其ノ會ノ活動ノ目的トナッテ居ラナイノデゴザイマス、從ッテ是ハ上下親和、意思疏通ノ機關、即チ意思ヲ疏通シ以テ海上産業ノ發展ヲ期スルト云フコトニ、其ノ根本ガ置カレテ居ルト斯様ニ私共ハ認識シ

テ居リマス、從ッテ此ノ形態ハ少クトモ海上ニ於テ組織セラレテ居リマスル所ノ是等團體ハ、皇道精神ト聊カモ相矛盾スルモノニ非ズシテ、又船員ニ對スル所ノ命令權ニ付キマシテモ、別個ノ團體ガ指令スルト云フヤウナ組織ニナッテ居リマセヌ、儼トシテ會社ノ首腦部ガソレ／＼指令スルコトニナッテ居リマスルカラ、此ノ點ニ於キマシテハ、心配ハナイト思フノデゴザイマス、從ッテ階級打破ノ思想ガ、海上ニ於テハソレ等團體ニアルトハ認識致シテ居リマセヌノデゴザイマス、尙海上ニ於ケル是等ノ運動等ニ於キマシテハ、海上ニ於ケル特殊性カラ出テ參リマス所ノ色々ノ事情ガアルノデゴザイマスカラ、只今御示ノヤウナ點ガ出テ參リマスルトソレコソ誠ニ由々數キ大事デアリマシテ、左様ナコトヲ悞レマスル點、又ソレヲ警戒シナケレバナラスト云フ點ニ於キマシテハ、井上男爵ノ御話ト全ク私共ハ同様ナ感想ヲ持ッテ居ルノデアリマスルカラ、御注意ノ點ハ之ヲ最モ能ク尊重致シマシテ、遺憾ナキヲ期シテ行キタイト存ジマス

○男爵井上清純君 只今ハ懇切ナル御答辯ガアリマシタ、大體諒承致シマスガ、尙一事申添ヘテ置キタイトハ、此ノ皇道精神デアリマス、日本ノ精神ハ日本ノ團體ニ即シタ所ノ精神デアリマシテ、何人モ持ッテ居リマスケレドモ、實ハ是非常ナルムヅカシイ事柄ニナッテ居ルヤウデアリマシテ、一度間違ヘルト全ク反對ノ結果ヲ來スノデアリマス、此ノ産業報國聯盟ノ御趣意ナドヲ能ク見マスルト、皇道精神ト云フコトハ隨所ニ出テ居リマスルケレドモ、其ノ精神ガシツカリ把握サレテ居ラナイ、例ヘバ日本ノ天子様ノ御天職ニ對シマシテモ、シツカリトシテ出テ居ラス、從ッテ皇國ノ日本ノ使命ニ付テモ明確デアリマセヌカラ、從ッテソレカラ誘導サレタ所ノ指導精神ト云フモノハ、ドウモ聯盟ノ指導精神ト云フモノハドウモ面白クナイト思ヒマス、日本ノ各、其ノ所ヲ得セシムルト云フコトガ此處ニ出テ居リマスルケレドモ、其ノ得セシムルト云フコトモ、解釋ニ依ッテハ色々ニ取ラレルノデアリマス、モウ資本家ダケガ良クテ、勞働者ガ待遇ガ惡ケレバ、ソレハ得セシメナイモノデアルト云フヤウニ取ラレルコトモアリマス、併シ其ノ所ヲ得セシムルト云フコトハ、君子ノ大義ヲ別チ、親ハ親タリ、子ハ子タリ、資本家ハ資本家タリ、勞務者ハ勞務者タリ、各、其ノ分ニ依ッテ其ノ本分ヲ發揮スルト云フコトデアラウト思ヒマスカラ、唯無暗ニ待遇ヲ平等ニスルコトガ日本ノ皇國ノ

精神デアルト云フヤウニ履キ違ヒマスルト、茲ニ恐ルベキ共產的ナ平等思想ト云フモノガ起ッテ來ルノデアリマス、其ノ點ガ非常ニ怪シクナッテ居リマスカラ、一度斯ウ云フコトガ官憲ノ力ニ依ッテ裏付ケラレマスルト、勞働爭議ト云フモノガ全ク大キナモノニナッテシマッテ、何人モ之ヲ止メルコトモドウスルコトモ出來ナイ下剋上ノ世ノ中ニナッテシマヒ、海上ニ於テ若シモサウ云フヤウナコトガ現レタナラバ、殆ド海上ノ仕事ト云フモノハ全滅ニナッテシマフ、現ニ或大キナ船ニ於テ最近洋中ニ於テ起ッタコトヲ聞イテ居リマス、此ノ洋中デハ多數ニ依ッテ負ケマスカラ、ドンナ上ノ人デモ少數デアリマスカラ、多數ニ依ッテ裁カレルト云フコトニナルト、ドンナ理窟デナイコトモ其ノ理窟ガ、其ノ主張ガ通サレルコトニナル、非常ナ危険ナモノニナリマス、只今管船局長カラ、注意ノ所ハ能ク諒承シテ、今後十分ナル注意ヲ施スト云フ御答辯デアリマスカラ、一應ハ満足致シマスケレドモ、ナカ／＼此ノ思想ノ問題ト云フモノハサウ手輕ニ行クモノデナクシテ、矢張り是ハ管船局デ以テ十分ニ御取締リニナッテ、餘リ他ノ團體ナドカラ色々ノ指令ガ行カヌヤウニサレタ方ガ宜クナイカト思ヒマス、サ

ウシテ斯ウ云フ産業報國聯盟ト云フヤウ
ナモノガアリマシテ、ソレノドウシテモ
支配ヲ受ケナケレバナラスト云フコトデア
ルナラバ、先ヅ眞先ニ皇國精神、日本ノ使
命ト云フヤウナコトニ付テ、徹底的ニ海員
ヲ教養スルト云フコトガ最モ先決問題ダト
思ヒマス、若シモ教養シナイデ、教化シナ
イデ直チニ斯ウ云フヤウナ産業報國聯盟ト
云フヤウナモノヲ「アプライ」スルナラバ、其
處ニ悞ルベキ結果ヲ來スヤウニ思ヒマス、
無論此ノ産業報國聯盟ト云フモノハ、國家
ノ爲ニ色々心配サレテ出來上ツタ聯盟デア
リマスルカラ、サウ云フ結果ヲ招致スルナ
ドト云フコトハ夢ニモ考ヘラルベキモノデ
ナイケレドモ、併シ遺憾ナガラ今日ノ思想
ト云フモノハ非常ナ「デリケート」ナ點ガア
リマシテ、ソレヲ又利用シヨウト掛ッテ居リ
マス、日本精神ヲ被セテ、サウシテ共産主
義的ナ思想ヲ宣傳シヨウトシテ居ル輩モア
ルノデアリマスカラ、餘程能ク此ノ點ハ御
注意下サラナケレバナラスト思ヒマス、私
ノ質問ハ是デ打切りマス

○岩田宙造君 私ハ細カイ點ニ付テ大臣其
ノ他ノ御見エニナル迄チヨット伺ヒタイト
思ヒマス、船舶建造融資、補給及損失補償
ノ法案ノ方デアリマスガ、此ノ損失補償契

約ト云フモノハ現在ハ興業銀行ノミニシテ
居ラレルコトと思フノデアリマスガ、是カ
ラ其ノ金融機關ガ多數ニナツテ參リマス
此ノ契約ハドウ云フ補償契約ヲ爲サルコト
トナルノデアリマセウカ、一行デアリマス
ト、金額一ツノ銀行ヲ抑ヘテソレデ豫ジメ
契約ヲシテ置クコトガ、日本銀行ト致シテ
居ラレル特融ノ如キ契約等デモ、是ハ自由ニ
出來ルノデアリマスケレドモ、銀行、金融
機關ノ數ガ多クナリマス、ソコニ實際上
ノ困難ガアリハシナイカト思フノデアリマ
スガ、其ノ契約ヲ爲サル順序ヲ一應伺ヒタ
イノデアリマス

○政府委員(伊勢谷次郎君) 御答ヘ申上ゲ
マス、此ノ融資補給及損失補償法ノ第一條
ニ依リマシテ、政府ハ金融機關トノ間ニ融
資ヲ補給シ損失ヲ補償スルノ契約ヲナシ得
ル、斯ウ云フコトニナツテ參ルノデアリマス
ガ、此ノ契約ニ依リマシテ損失ヲ補償スル
場合ハ、是ハ損失ガ出來テ來タ場合デア
ルコトハ勿論デアリマスガ、其ノ損失補償ノ
範圍ハ第五條ニ規定シテゴザイマスノデ
スガ、政府ノ損失補償ハ金融機關ガ融通ニ因
テ受ケタ損失ノ百分ノ七十ト云フコトニ
致シテ居ルノデアリマス、即チ先ヅ第一ニ
銀行ト政府トノ間ニ起ツテ參リマスコトハ、當

面ノ問題トシテハ融資補給契約ニ基イテ、
融資補給ヲシテ行ク問題ガ起ツテ來ルノデ
アリマス、サウ云フ契約ト同時ニ其ノ銀行
ガ損失ヲ生ジタ場合ニ於キマシテハ、其ノ
損失ノ百分ノ七十ヲ政府ハ補償スル、斯ウ
云フ契約ガ同時ニ成立シテ行クコトニナル
ノデゴザイマス、而シテ其ノ損失補償ノ範
圍ハ損失ノ百分ノ七十、斯様ニナル次第デ
ゴザイマス

○岩田宙造君 私ノ御尋ノ仕方ガ簡單デア
リマシタカラ能ク趣旨ガ御分リニナラナカ
タカト思フノデアリマスガ、私ノ伺ヒタイ
ノハ、此ノ損失補償ノ限度ガ豫算デ決マリ
マスカラ、例ヘバ一億圓ナラ一億圓迄ノ損
失ヲ限度トシテハ政府ガ責任ヲ持ツ、斯ウ
云フコトニナリマス、其ノ契約ヲシマス
ル相手方ガ日本銀行ナリ興業銀行ナリ一ツ
ノ銀行デアリマス、其ノ一ツノ銀行ト一
億圓ト云フモノヲ押ヘテ契約ヲスルコトハ
マア自由ニ出來、現ニヤッテ居ルノデアリ
マスケレドモ、ソレガ例ヘバ二ツノ銀行ニ
ナルト致シマスルト、ソレハドウ云フ風ニ
シマスカ、兩方ヘ一億圓宛ヤル譯ニ參リマ
セヌカラ、或ハソレヲ五千萬圓宛ニ分ケテ、
甲ノ銀行トモ五千萬圓迄補償スルト云フ約
束ヲシ、乙ノ銀行トモ五千萬圓迄補償スル

ト云フ約束ヲスルト云フヤウナコトニナル、
ソコガ伺ヒタイノデアリマス、若シサウ云
フ風ニ致シマスと云フト、甲ノ銀行ノ方デ
ハモウ少シ融通シタクテモ出來ナイ、乙ノ
方デモ融通シタクテモ出來ナイト云フノデ、
結局是ガ完全ニ目的ガ達セラレナイヤウニ
ナル虞ガアリマスルシ、其ノ關係ヲ伺ヒタ
イノデアリマス

○政府委員(伊勢谷次郎君) 御尋ヲ誤解致
シマシテ誠ニ濟ミマセヌデシタ、此ノ損失
補償ニ付キマシテハ、損失ガ確定シタ後ニ
豫算ニ計上シテ損失補償ヲスル、確定シタ
後ニヤルト云フコトニ考ヘテ居ルノデアリ
マシテ、豫メ何億圓ニ限ツテ損失ヲ補償ス
ト云フ、斯ウ云フ風ニハ考ヘテ居ラナイノ
デゴザイマス、從ツテ豫メ政府ノ負擔スベキ
損失補償額ト云フモノヲ各金融機關ニ分ケ
ト云フ問題ニナツテ參ラヌ次第デゴザイマ
スガ、ソレダト此ノ金融機關ノ方デ貸シ
マス時ニ、是ハ幾ラ迄ハ萬一ノ場合ニ損害
ガアツテモ補償シテ貰ヘルト云フコトデ安
心シテ貸スコトガ出來ルノデアリマスケレ
ドモ、其ノ損失ガ確定シテカラ補償シテ貰
フ金額ガ決マルト云フコトニナリマス、是
ハ幾ラ補償シテ貰ヘルカ分リマセヌカラ、

金融ヲスルノニハ困ルノデハナイカト思ヒマス、ソレデ豫メ五千萬圓迄ハ補償シテ貰ヘルノダト云フコトガ分ッテ居リマスカラ、其ノ銀行デハ安心シテ、是ハ多少危イト思ッテモ、マダ損害ハ五千萬圓迄行クマイト云フコトデ貸スコトハ出来マスケレドモ、現實五千萬圓ノ損害ガ起ツタ時、初メテ其ノ中幾ラ補償シテ貰ヘルカガ分ルノダト云フコトデハ、ドウモ其ノ目的ヲ達セラレナイヤウニ思ヒマスケレドモ……

○政府委員(伊勢谷次郎君) 只今仰セノ如キ方法ニ依リマシテ、損失補償ヲ爲シテ参リマスルコトモ一ツノ方法ダト考ヘテ居ルノデアリマスガ、併シ此ノ法律デヤリマスル損失補償ノ範圍ハ、金融機關ガ此ノ法律ニ基ク融通ニ依ッテ受ケタ損失ノ七割、損失ノ七割ト云フコトニ決ッテ居リマスルカラ、萬一ノ場合損失ヲ生ジタ場合、損失補償ヲ受ケル額ト云フモノハ明瞭ニナッテ居ル次第デゴザイマス

○政府委員(平川松太郎君) チョット一ツ補充シテ置キマスガ、實ハ此ノ點私初メテ見マシタ時ニ非常ニ疑問ガ起キマシテ色々研究シテ見タノデアリマス、結局此ノ第五條ニ依リマシテ損失ノ百分ノ七十ト云フモノヲ定メテ居リマスガ、茲デ損失ヲモウ一

旦受ケマシテ、今度補償ノ契約ヲスルト云フコトハ、チョット變ニ考ヘラレルノデアリマスガ、結局實際ニ於テ銀行ナドガ損失ヲ致シマシタ場合ニハ、此ノ百分ノ七十ヲ補償スル、併シ其ノ額ハ第五條ニ依リマシテ定マツテ居ルカラ、貸出ノ銀行モ安心シテ貸スコトガ出来ルデヤナイカ知ラト、斯ウ云フ風ニ解釋シテ居ルノデ、契約ト云フモノハ損失ヲ致シマシテ後ニソレヲ補償スルト云フ契約ヲスルノデ、チョット初メカラ契約ヲスルノデナイカラ變ニ考ヘラレマスガ、サウ云フ意味ニ御解釋願ヒタイト思ヒマス

○岩田宙造君 私ノ誤解デアツカモ知レマセヌガ、サウシマス此ノ損失ノ百分ノ七十ダケハ……デハ幾ラ多クナッテモ無制限ニ補償サル、趣旨デアリマスカ、ソレナラバソレデ分ルノデアリマスガ……

○政府委員(平川松太郎君) サウデアリマス、無制限ニ補償スルノデアリマス

○岩田宙造君 ソレデ其ノ點了解致シマシタ、其ノ次ニモウ一ツ伺ヒタイノデアリマスガ、第六條、一旦補償ヲサレテカラ後ニ其ノ債權ヲ取立テマシタ場合ニハ、其ノ百分ノ七十ニ相當スルダケハ政府ノ方ヘ納付スル、是ハ百分ノ七十ダケヲ補償シテアリマスカラ、ソレニ對スル分ヲ政府ガ受入レ

ラレルト、斯ウ云フ趣旨デアラウト思ヒマスガ、サウ致シマス云フト、是ハ先刻ノ御説明ニ依リマスルト、此ノ補償金額ト云フモノハ損失ガ確定シテカラデアリマスルカラ、決定サレタ補償金額ト、ソレカラ現實ノ補償金額ト云フモノノ間ニ相違ヲ來スト云フ場合ハナイ建前デ出来テ居ルノデアリマセウガ、私ノ多少ノ疑問トシマスルノハ、日本銀行等ノ特融ノ場合デアリマス、損失ヲ決定サレルノハ或時期ニ決定ヲサレマシテ、例ヘバ是ニハ擔保ガ是ダケアルガ、其ノ擔保ニ依ッテ實際如何程回收ガ出来ルダラウ、是ダケハ擔保不足ダト云フコトデ豫メ補償金額ヲ決定サレマスカラ、實際アトカラヤッテ見ルト、實際ノ損失額ト云フモノハ必ズシモ其ノ決定サレタ補償金額トハ一致シナイ場合ガ出来テ來ルノデアリマス、サウ云フ場合ガ此ノ案デハ出来テ來ナイト云フコトナラバソレデ宜イノデアリマスガ、若シサウ云フ場合ガアリ得ルト致シマス、實際決定ヲシテ拂ハレマシタ補償金額ヨリモ、現實ノ損失ガ多イ場合ニハ、其ノコトカラ回收シタ百分ノ七十ヲ段々取ッテ行キマス、非常ニ宜イ場合ニハ政府ノ方ハ實際拂ツタ以上ノ金ヲアトカラ取ルト云ヤウナ場合ガ理窟上ハ起リ得ル譯デ、

萬一サウ云フ場合ガアリマシタ時ニハ、此ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ納メルト致シマシテモ、政府ガ金額ヲ回收サレタ後ハモウ是ハ適用ナイモノト見テ宜イノダラウト思ヒマスガ、其ノ點ヲ尙念ノ爲ニ伺ッテ置キタイ

○政府委員(平川松太郎君) 仰セノ通りニ全額ノ補償ヲ受ケレバ此ノ適用ハナイヤウニ考ヘテ居リマス

○岩田宙造君 此ノ補償法案ノ方ニ付テ御尋ネシタイト思フノハソレダケデアリマス

○大橋八郎君 今ノ岩田サンノ御質問ニ關聯シタコトデチョット伺ヒタイ、損失補償法ノ第一條ノ先程ノ質問ニ關聯シテ居リマスガ、「補給金ヲ支給シ且融通ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得、」此ノ契約ハ二ツニナルノデスカ、最初カラ補給金ヲ支給シ、且其ノ融通シタコトノ爲ニ損失ヲ受ケタ場合ニハ補償スルノダ、斯ウ云フ一本ノ契約ヲヤル譯デアリマセヌカ、初メカラ二ツノ契約ヲ別々ニヤル、斯ウ云フコトデスカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 一本ノ契約ト思ヒマス

○大橋八郎君 サウダラウト私ハ想像シテ居ツタノデスカ、先程ノ御説明ダト何ダカ損

○政府委員(平川松太郎君) 仰セノ通りニ全額ノ補償ヲ受ケレバ此ノ適用ハナイヤウニ考ヘテ居リマス

○岩田宙造君 此ノ補償法案ノ方ニ付テ御尋ネシタイト思フノハソレダケデアリマス

○大橋八郎君 今ノ岩田サンノ御質問ニ關聯シタコトデチョット伺ヒタイ、損失補償法ノ第一條ノ先程ノ質問ニ關聯シテ居リマスガ、「補給金ヲ支給シ且融通ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得、」此ノ契約ハ二ツニナルノデスカ、最初カラ補給金ヲ支給シ、且其ノ融通シタコトノ爲ニ損失ヲ受ケタ場合ニハ補償スルノダ、斯ウ云フ一本ノ契約ヲヤル譯デアリマセヌカ、初メカラ二ツノ契約ヲ別々ニヤル、斯ウ云フコトデスカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 一本ノ契約ト思ヒマス

○大橋八郎君 サウダラウト私ハ想像シテ居ツタノデスカ、先程ノ御説明ダト何ダカ損

○政府委員(平川松太郎君) 仰セノ通りニ全額ノ補償ヲ受ケレバ此ノ適用ハナイヤウニ考ヘテ居リマス

○岩田宙造君 此ノ補償法案ノ方ニ付テ御尋ネシタイト思フノハソレダケデアリマス

○大橋八郎君 今ノ岩田サンノ御質問ニ關聯シタコトデチョット伺ヒタイ、損失補償法ノ第一條ノ先程ノ質問ニ關聯シテ居リマスガ、「補給金ヲ支給シ且融通ニ因リテ受ケタル損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得、」此ノ契約ハ二ツニナルノデスカ、最初カラ補給金ヲ支給シ、且其ノ融通シタコトノ爲ニ損失ヲ受ケタ場合ニハ補償スルノダ、斯ウ云フ一本ノ契約ヲヤル譯デアリマセヌカ、初メカラ二ツノ契約ヲ別々ニヤル、斯ウ云フコトデスカ

失ガ出来テカラ損失補償ノ契約ヲスルト云
フヤウニ聞エタカラチョット變ダナト云フ
氣ガシタノデスガ……

○岩田宙造君 今一ツ、先刻ノ法案ニ付テ
伺ヒイタノデアリマスガ、第一條ノ第二項
ヲ私ハ自分ガ言ツタヤウニ解釋シテ居ツタノ
デアリマスガ、是ハドウ云フコトニナルノ
デアリマセウ、「前項ノ契約ハ之ニ基キ支給
スベキ補給金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經
タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲ス
コトヲ要ス」、斯ウアリマスカラ、此ノ補給
金額ハ無制限デナクテ、制限ガアルヤウニ
私ハ解シテ居ツタノデアリマスガ、是ハハド
ウ云フ意味ニナルノデアリマスカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 仰セノ通り補
給金、利子補給ノ方ニ制限ガゴザイマスノ
デ、假令此ノ契約ニ基イテ支給スベキ補給
金總額ガ、帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額モ、
毎年ノ議會ノ協賛ヲ經テ行キマスカラ、其
ノ範圍内デ契約ヲ爲スコトヲ要スル、是ハ
斯ウ云フ譯デゴザイマス、毎年度、昭和十
二年度ニ於テ例ヘバ九千萬圓ノ建造資金
ノ融資ヲ爲ス必要ガアル、サウシテ見マス
ト、其ノ金額ニ對シマシテ金融機關ノ資金
「コスト」、ソレカラ貸付ケル金ハ大體三分七
厘ト考ヘテ居リマス、其ノ開キノモノト手

數料ニ該當スル一部ノモノト加ヘタモノ
ガ補給金、斯ウナツテ參リマスカラ、其ノ補
給金ナルモノハ貸付額ニ對シテ決ツテ來マ
スカラ、其ノ補給金ノ總額、例ヘバ六十萬
圓ナラバ六十萬圓ト云フモノガ、丁度九千
萬圓貸付ケルノニ必要ナル補給金ト云フコ
トニ該當シテ來ル、サウシマスルト其ノ六
十萬圓ト云フモノガ帝國議會ノ協賛ヲ經テ
居ナケレバナラヌ、假ニ五十萬圓ト云フコ
トニ査定サレルト云フコトニナリマスレ
バ、勿論九千萬圓ノ融通ト云フモノハ出來
ナイ、斯ウ云フコトニナル譯デアリマス
○岩田宙造君 サウ致シマス、前項ノ契
約ハトナツテ、其處ハ補償契約ノ方ニ含ムヤ
ウニチョット見エマスケレドモ、サウデハナ
クテ補給金支給契約ダケニ掛カテヤレバ
宜イ譯デアリマスカ
○政府委員(伊勢谷次郎君) サウデゴザイ
マス
○岩田宙造君 了解致シマシタ
○子爵秋元春朝君 今ノニ關聯致シマシテ
チョット伺ヒタイノデスガ、融資補償委員會
カ審査會カ何カ出來ルヤウデスガ、其ノ組
織ノ内容ヲチョット伺ヒタイト思ヒマス
○政府委員(伊勢谷次郎君) 御答ヘ申上ゲ
マス、此ノ審査會ハ官廳側ト致シマシテハ

逓信省、大藏省、司法省、商工省等ノ官廳
側、ソレカラ金融業者、海運業者、造船業
者、ゾレカラシテ學識經驗者、サウ云フ「メ
ンバー」デ組織致シタイト考ヘテ居リマス
○子爵秋元春朝君 何人位デゴザイマスガ
○政府委員(伊勢谷次郎君) 委員ガ十五名
ト豫定シテ居リマス、ソレカラ幹事八名
○橋本辰二郎君 只今ノ補給金ノ御説明ニ
依リマスルト、貸付クベク現金ノ利息ノ「コ
スト」ト、船舶業者ノ支拂フベキ三分七厘ト
ノ差額ヲ補給シ、尙之ニ取扱手數料トシテ
一部ヲ補給スル、斯ウ云フ御話デアリマス
ルガ、興銀ノ貸付元金ノ「コスト」ト云フモ
ノハ、興業債券デ四分二厘ナラバ四分二厘
デ決定致シマスガ、今度範圍ヲ非常ニ擴ゲ
ラレマス、各銀行若シクハ保險會社、信
託會社等ニ依ツテ其ノ貸付金ニ充當スベキ
元金ノ利息ノ「コスト」ガ非常ニ違フト思ヒ
マスガ、サウ云フ風ニ違ヒマスコトニナリ
マス、豫算ヲ請求スル場合ニ於テ非常ニ
御困リニナリハシナイカト思ヒマスガ、是ハ
貸付金ニ充當スベキ元金ノ利息ノ「コスト」
ト云フコトヲ豫メ一定シテ置カレル方ガ最
モ便利デナイカト思ヒマスガ、其ノ點如何
デスカ
○政府委員(伊勢谷次郎君) 仰セノ如ク致

シマスレバ非常ニ便利デアルコトハ仰シヤ
ル通りデゴザイマスガ、何分ニモ此ノ資金
「コスト」ハ必ズシモ同様デハゴザイマセヌ
モノデアリマスカラ、ソコデ此ノ困難ヲ除
去致シマス爲ニ、資金「コスト」ニ付キマシ
テハ主務大臣ガ調査ヲシテ之ヲ定メ、主
務大臣ガ決定シテ其ノ補給ノ額ガ自然ニソ
レ決定ツテ來ル、斯様ニ致シタイト考ヘテ居
リマス
○橋本辰二郎君 サウ致シマス、政府ト致
シマシテハ成ルベク國庫ノ負擔ヲ輕減スル
爲ニ、自然其ノ「コスト」ノ安イ銀行ニ貸出
シ方ヲ主トシテ命ズルト云フヤウナコトニ
ナリハシマセスカ
○政府委員(伊勢谷次郎君) 是ハ此ノ豫算
トシテ補給金ノ額ヲ取リマス場合ニ、大體
豫算ノ形式ニ依リマシテ平均ノ支給率ト言
ヒマスガ、平均ノ「コスト」カラ來タ支給率
ト云フモノヲ基トシテ豫算ヲ取ツテ參リマ
スカラ、サウシテ此ノ豫算ヲ十分ニ所期ノ
目的ヲ達スルヤウニ、所期ノ額ノ貸付ガ爲
シ得ルヤウニ貸付テ行カナケレバナラヌト
云フコトニナリマスカラ、自然其ノ方面
カラ制約サレテ來マシテ、餘リニ飛ビ離レ
テ資金「コスト」ガ高イト云フモノニ付キマ
シテハ、ソレヲ認メテヤルコトガ非常ニ困難

ナ場合ガアリマスルカラ、勢ヒ仰シヤルヤウナ事情ガ出テ來ルカモ知レマセヌガ、併シソレハ豫算ヲ施行シ、貸付ハ建造ノ爲ニ必要ナル資金ヲ貸付ケ得ルト云フ目的ヲ達シ得ル範圍内ニ於テ、適當ニ處置シテ行ク積リデゴザイマス

○橋本辰二郎君 私ノ考ヘル所ニ依リマス
ト、豫算ノ執行ニ忠實ナル政府當局者ト致シマシテハ、成ルベク資金「コスト」ノ廉イ銀行ヲ御利用ニナルト云フコトニ是ハ傾カザルヲ得スト思ヒマス、處ガ、船舶業者ニセヨ、金融ヲ利用スル人ハ取引銀行ト云フモノガ個々ニアリマスルノデ、ソレデ自然取引セザル銀行ト交渉スル場合ニ於テ、非常ナ不便ヲ蒙ルヤウナコトガアラウト思ヒマスルデ、其ノ點ニ付キマシテハ、直チニ是ハ資金「コスト」ガ高イカラ、此ノ方ハモウ止メテ、片一方ノ所謂大銀行ノ方ハ資金「コスト」ガ廉イカラ、之ニ總テノコトヲ委セルト云フヤウナコトハナサラズシテ、成ルベク金融機關ヲ廣ク利用スルト云フ御趣意デゴザイマセウカ

サイ銀行ハ「コスト」ガ高イト思ハナケレバナラヌ處ガ取引者トシテハ、矢張り取引者トシテ小サイ銀行ヲ年中自分ノ得意トシテ居ルカラ、ソレト交渉スル方ガ便利デアリマス、處ガソレ等ハ「コスト」ガ高イカラ、此ノ方ハ避ケテ大キイ所ニ行ケト斯ウ云フ風ニ言ハレルト非常ニ不便ヲ蒙ルト思ヒマスルガ、出來得ル限り多少ノ國庫ノ損失ハデスネ、我慢ヲシテデモ廣ク金融機關ヲシテ、此ノ融資ニ當ラシムルト云フ御趣意デゴザイマセウカト云フノデス

○政府委員(伊勢谷次郎君) 廣ク金融機關ヲシテ此ノ融資ニ當ラシメタイト云フノガ、今度ノ法律ヲ出シマシタ一ツノ理由デモアリマスカラ、仰セノ通りデハアリマスルガ、併シ先程申上デマシタヤウニ、此ノ一方ニ於テ豫算ガアリマスルカラ、豫算ヲ施行シテ十分ニ目的トスル噸數ノ船舶ノ建造ヲ實現シナケレバナラヌノデアリマスルカラ、其ノ目的貫徹ニ支障ナキ限りニ於テハ仰セノ通りデ差支ナイト思ヒマス

○岩田宙造君 海運組合法案ニ付テ御尋ネシテ宜シウゴザイマスカ

○委員長(伯爵後藤一藏君) 宜シウゴザイマス

○岩田宙造君 第一條ニ、海運業トハ左ニ掲グル事業ヲ謂フト云フ第三項ニ、仲立業ガ入ッテ居ルノデゴザイマスガ、是ハ仲立業ヲ入レル必要ガアリトシマスルナラバ、運送取扱業モ同ジヤウニ入レル必要ガアルノデヤナイカト考ヘラレルノデゴザイマスガ、如何デゴザイマセウカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 誠ニ御尤モナ御疑念ト存ジマス、此ノ仲立業ヲドウシテモ入レルコトニスル必要ガアリマスルコトハ、是ハ通俗ニ「ブローカー」ト言ヒマスルガ、其ノ仕事ガ事實上、海運ノ統制ニ影響ヲ及ス所ガ非常ニ大キイノデアリマシテ、此ノ組合法ニ依ッテ組合ヲ結成セシメ、其ノ素質ヲ向上セシメ、海運ノ健全ナル發達ヲ圖ッテ行クコトガ必要ダト斯ウ云フ所カラ出テ來テ居ルノデアリマス、即チ此ノ運送ノ仲立ヲシテ居ル者モアリマスシ、ソレカラ船ノ橋渡し、賣買ノ仲立ヲヤッテ居ル者モアリマスカラ、之ヲドウシテモ統制シテ行カナケレバ、海運ノ統制ガ出來難イト云フ所カラ出テ居ルノデゴザイマス、サウシマスト仰セノヤウニ、矢張り運送取扱業者モ入レル必要ガアルデヤナイカト云フコトヲ、私共モ能ク研究シテ見タノデアリマスルガ、是ハ其ノ仲立業者ノ方トハ違ッテ、大體ノ場合ニ於キマシテ、自分ノ名前デ自ラ運送契約ヲ締結シテ、自ラ運送行爲ヲシテ居ル場合ガ非常ニ多イノデゴザイマス、從ッテソレ等ハ當然第一條ノ船舶ニ依ルモノデ、運送事業ノ中ニ包含サレテ参リマスルカラ差支ガナイト云フコトト、モウ一ツハ此ノ所謂運送取扱業者ト云フコトニナリマスルト、獨リ港ニ於テ海上運送ノ運送取扱ヲ爲スモノバカリデナシニ、廣ク全國ノ到ル所ニアル運送取扱業者ガ、海上運送ノ運送取扱業者ヲ爲ス場合ガ例外トシテ起ッテ來ルコトガアルノデアリマスカラ、從ッテ全國ノ運送取扱業者ヲシテ、組合ヲ組織シナケレバナラヌト云フ風ナ實際上實益ノ伴ハナイ非常ナ煩瑣ナコトニナッテ参リマスルカラ、實際ノ仕事ノ運行カラ見マシテ、運送取扱業者ト云フモノハ、是ハ入レヌ方ガ却テ宜イ、斯ウ云フ結論ニ到達シタ次第デアリマス

○橋本辰二郎君 大銀行ノ如キモノハ自然「コスト」ガ廉イモノト見ナケレバナラヌ、小

○岩田宙造君 第一條ニ、海運業トハ左ニ

ノ場合ニ於キマシテ、自分ノ名前デ自ラ運

多クノ過怠金ヲ取ルコトニシテ置イテ、統

統

制ノ實力ヲ發揮シヨウ、サウ云フヤウナコトニモ過怠金ヲ課スルコトガ出來ル意味ダラウト思フノデアリマスガ、サウ解釋シテ宜イノデアリマスガ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 是ハ却テ岩田博士ニ御教示ヲ願ヒタイノデアリマスガ、是ハ立案者ト致シマシテハ、過怠金ハ定款違反者ニ對シテ違約處分トシテ課スル自治的制裁ノ一ツデアル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ立案致シテ居ルノデアリマシテ、只今仰セノヤウナ事柄ニ付キマシテモ、定款ニ定メテサウ云フ風ニ爲シ得ルト斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマスルガ、如何デゴザイマセウカ

○岩田宙造君 私モ、ソレハ出來ルコトデアルシ、又サウ云フコトガ必要ダト考ヘテ居リマスガ、政府ノ方デモサウ云フ御趣旨ナラバ結構デアラウト思フノデアリマス、ソレカラ第六條ノ此ノ組合員ノ資格ニ關スル點デアリマスガ、是ハ造船組合ノ方ニハ地區ト云フコトガ要件ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、此ノ海運組合ノ方デハ地區ヲ要件ニセラレナカッタノハ、ドウ云フ譯デセウカ、是ハ何カ兩方ニ區別ヲ設ケル理由ガアルノデゴザイマセウカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 之ニ付キマシ

テハ、實ハ此ノ海運組合ノ方デハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格ヲ有スル云々ト云フ風ニ規定シテ居ルノデアリマシテ、是ハ唯地區ヲ定メ、組合員タルベキ資格ヲ有スル者ト、斯ウ云フ風ニ致シマスレバ、其ノ地區ガ判然致シマセヌ結果トシマシテ、折角業者ノ方デ組合ヲ作ッテ來マシテモ、政府ノ考ヘテ居ル所ト違フト云フコトデ、不認可ニナル場合ガ多イト云フ風ナコトニナリマシテハ非常ニ不親切ダト考ヘマシテ、勅令デ大體ノ地區、斯ウ云フ風ニ地區ニ依ッテ組合ヲ設置スルト云フ標準ヲ告示致ス積リデ居リマスノデゴザイマス、從ッテ茲ニ地區ト云フ言葉ヲ拔出シテ書イテゴザイマセヌノデアリマスルガ、唯此ノ組合員タルベキ資格ト云フ文字ノ中ニハ地區迄モ含メテ、其ノ資格ヲ決メテ行キタイト、斯様ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス

○岩田宙造君 此ノ十一條デアリマスガ、「海運組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス」ト、設立ノ認可アリタル時、此ノ方ハハッキリシテ居ルノデアリマスガ、前條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時、前條第二項ト申シマスノハ、創立總會デ順

當ニ運バナイ場合ニ、是ハ政府ノ方カラ命

ジテ組合ヲ作ラセル場合デアリマスカラ、任意ニ運シテ來ナイ、其ノ時ニハ政府ノ方デ定款ノ作成、其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲サレル場合ニ關スルコトデアリマスト、此ノ時ニ定款ノ作成アリタル時ニ成立スルトナツテ居リマスルガ、定款ノ作成ダケデナクシテ、役員ノ任命モ行ハレルノデアリマスルカラ、ソレ等ノ必要ナ處分ヲ總テ終ツタ時ニ成立スルト云フコトデナイト困ルノデハナイカト思フノデアリマスガ、是ハ同時ニヤレバ宜シウゴザイマスケレドモ、實際ノ順序トシテハ定款ハ先ヅ政府ノ方デ作ラレマスケレドモ、定款ガ出來タ爲ニ初メテ役員ノ任命、ソレト交渉ラナサツテ、サウシテ斯ウ云フ定款デ組合ヲ作ルノダト、其ノ役員ニオ前ナレト云フ實際ノ交渉ガアツテ、任命ヲサレルコトニナルダラウト思フノデアリマス、デアリマスカラソレ等ノ必要ナ處分ガ済ムダ時ニ成立スルト云フコトデアリマセスト、役所ノ中デ定款ダケ出來タカラ、其ノ時ニ會社ガ出來タト云フコトニナルト云フコトデハ、何カ差支ガ生ズルコトガアリハシナイカト思フノデアリマスガ、如何デゴザイマスカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 實際上只今仰セノヤウニモ思ハレマス、從ッテ此ノ前條第二項ノ規定ニ依ッテ定款作成アリタル時ト申シマスノハ、大臣ガ決裁シタ時ト云フ風ニナルト思フノデアリマスガ、是ハ追テ告示サレマスルカラ、其ノ時期ガ明カニナルノデアリマスルケレドモ、サウ云フ時迄ニハ只今仰セノヤウナ、此ノ第十三條ニ規定シテ居リマス「政府第十條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ海運組合ノ理事及監事ヲ命ズ」ト云フ風ナ實際上ノ下拵ヘガ出來テ、殆ド時ヲ同ジウシテ行ハレル、斯様ニ考ヘテ居リマス

○岩田宙造君 ソレハマア實際上差支ガ生ジナイト云フ御考デアレバ、ソレデ宜イカト思フノデアリマスガ、其ノ次ニ第二十二條ハ、海運業ノ經營ニ關スル弊害ヲ豫防シ若シクハ矯正スル爲、又ハ其ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲必要アリト認ムル場合ニ、政府デ或統制ノコトヲ組合デ決メマスルト云フト、其ノ統制ニ從ヘト云フコトヲ改メテ其ノ組合員ニ命令ヲサレ、竝ニ組合員以外デ、組合員タル資格ハ持ッテ居ルケレドモ、マダ組合員トナツテ居ラス者ニ命令ヲサレルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、是ハサウ云フ命令ヲサレマシタ場合ニ、其ノ命令ノ效力ト云フモノハ、唯國ニ對シテ其ノ命

令ヲ受ケタ者ハ服從ノ義務ヲ持ツダケデアリマセウカ、其ノ組合ニ對シテモ、サウ云フ命令ガアレバ服從セナケレバナラスト云フ義務ヲ負フノデアリマセウカ、ソレハ實際問題ト致シマシテハドウ云フ違ヒガアルカト云ヒマスルト、國ニ對シテノミ義務ガアルノデアリマスルナラバ、ソレニ從ハナイ場合ニ此ノ罰則ガアリマスカラ、ソレニ依ッテ處罰ヲサレルト云フコトハ當然起リマスケレドモ、組合ニ對シテハ責任ガ無イト云フコトニナリマスルト、例ヘバ先キ申シマシタソレニ從ハナイ者ハ、過怠金ヲ取ルト云フヤウナ定ガアリマシテモ、其ノ過怠金ハ取ルコトガ出來ナイト云フ實際上ノ違ヒヲ生ジテ來ルト思フノデアリマス、斯ウ云フ命令ガアリマシタ效果ハ、ドウ云フ風ニナルノデアリマスカ、矢張り組合ニ對シテモ其ノ命令ノ結果責任ヲ負フコトニナリマスルカ、又國ニ對スル義務ヲ負フダケニナルノデアリマスカ、是ハドウ云フコトニナリマスカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 此ノ場合ハ、組合員デアル場合ト、組合ニ入ッテ居ラナイ……組合員タル資格ハ持ッテ居ルケレドモ、非組合員ノ場合ト、二ツニ依ッテ違ッテ來ルト思フノデアリマスルガ、組合員デアリマスル場合ニ於キマシテハ、組合員ガ統

制規定ヲ定メテヤッテ居ッテモナカ……從ハナイ者ガアッテ、組合ノ統制力ダケデハ非常ニ困ル、斯ウ云フ場合ニ組合ノ統制ニ從ハナイ者ニ對シマシテハ、政府ハ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ジ、而モ尙且之ニ服セナイト云フ場合ニ於キマシテハ、仰セノヤウニ此ノ法律ノ罰則ノ適用ガアルノデアリマスガ、一面ニ於キマシテ此ノ場合ニ於キマシテハ、其ノ者ハ矢張り組合員デアリマスルカラ、組合員ニ對シテモ義務ガアリマスルカラ、過怠金ト云フ問題ハ同時ニ起ッテ來ル問題ダト考ヘテ居リマス、然ルニ非組合員ニ對シマシテハ、是ハ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルノデアリマスルケレドモ、之ニ違反シマシタ結果ハ、國ニ對シテノミ責任ガ生ジテ來ルト考ヘテ居ルノデアリマシテ、組合自體ニ對シマシテハ過怠金ノ問題ハ起ッテ來ナイト、斯様ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○岩田宙造君 其ノ御説明ハ諒承致シマシタ、其ノ次ニモウ一ツ御尋シタイノデアリマスガ、是ハ三十三條デ民法ノ規定ガ準用シテアル點デゴザイマスガ、其ノ民法ノ五十九條ノ第三號ト四號ガ準用サレテ居ルノデアリマス、此ノ民法ノ五十九條ト云フノハ何カト申シマス、監事ノ權限職務ニ關

スル規定デアリマス、理事、監事ノ權限職務ニ關スル規定デアリマス、理事、監事ノ……監事ノ職務ニ關スル規定デアリマシタガ、是ハ民法ノ方ハ一號乃至四號迄アルノデアリマスガ、其ノ内ノ三號、四號ダケヲ準用ニナッテ、一號、二號ハ準用サレテ居ラヌノデアリマス、是ハドウ云フ譯デアリマスカ、例ヘバ一號ハ「法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト」、ソレカラ二號ハ「理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト」斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ、主トシテ一號ノ「法人ノ財産ノ狀況ヲ監査スルコト」ト云フ民法ノ監事ハ、財産狀況ガ監査ガ出來ルノデアリマスルケレドモ、之ヲ殊更ニ御抜キニナリマシタノハ、ドウ云フ譯デアリマスカ、サウシテ準用サレデアリマス其ノ三號ヲ見マスト云フト、矢張り財産ニ關係シナイカト云フト、シテ居ルノデアリマシテ、財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ、之ヲ主務官廳ニ報告シナケレバナラスト云フ責任ハ監事ハ負ウテ居ルノデアリマス、財産ノ狀況ニ付テ不整ノ廉ガアレバ、主務官廳ニ報告シナケレバナラスト云フコトハ準用シテアリナガラ、財産ノ狀況ヲ監査スルコトハ出來ナイ、シナイト云フコトニ一號ノ方ハ拔

イテアルノデアリマスルケレドモ、是ハ何カ特別ノ理由ガオアリニナルノデアリマスカ
○政府委員(伊勢谷次郎君) 是ハ實ハ斯様ニ考ヘテ居ルノデゴザイマスガ、此ノ組合法ノ十六條デゴザイマスガ、之ニ海運組合ニハ「理事及監事ヲ置クベシ」、ソレカラシテ「監事ハ組合ノ業務ヲ監査ス」斯様ニ規定シテアルノデゴザイマスガ、從ッテ民法ノ五十九條ノ一號、二號ハ業務監査ノ中ニ入ルノデヤナカラウカ、ソレデハ先ヅ準用シナクトモ宜イガ、三號、四號ニナリマスト云フト、ドウモ其處迄ハイカスカラ、是ハ準用スル必要ガアルダラウト斯様ニ考ヘテ居リマス次第デアリマス
○岩田宙造君 イヤ分リマシタ、組合法案ニ付テハ私御尋ネシタイノハソレダケデアリマス
○大橋八郎君 此ノ組合法案ノ二十二條、先程岩田サンカラ御質問ノアリマシタ事柄ニ關聯シタコトデスガ、政府カラ組合員ニ對シテ態、組合ノ統制ニ從ヘト云フコトノ命令ヲ出スコトガ出來ル、斯ウ云フコトデアリマス、此ノ事ハ組合ノ内部ノ定款ノ規定デ以テ色々統制ニ關スル規定モ或程度迄出來ルデセウ、又統制ニ關スル規定ヲ特別ニ作レト云フヤウナコトモ此處ニ書イテアルノ

デアリマス、之ニ依ッテ自治的ニ組合内部ノ
統制ガ出來ルノデヤナイカト思ハレルノデ
アリマスガ、此ノ自治的ニ組合内部ノ統制
ヲヤッテ行クト云フ所ニ組合ノ値打ガアル、
又組合ヲ作ラレル趣旨ガアルノダト思フノ
デアリマス、其ノ爲ニハ先程モ御話ノアリ
マシヤウニ、過怠金ヲ取ルト云フ制度モ
作ラレルノデヤナイカト思フ、其ノ組合員
ニ對シテ組合ノ力ヲ差措イテ、政府ノ方カ
ラ直接ニ命令ヲ出ス、組合ノ統制ニ從ヘト
云フヤウナ命令ヲ出スト云フコトハ、ドウ
モ如何ニモ何ダカ折角組合法ヲ作ラレル趣
旨ヲ弱メラレルヤウナ感ジモスルノデアリ
マス、斯ウ云フ種類ノコトガ若シ必要ダト
スレバ、組合法ノ中ヘソレヲ入レルト云フ
コトヨリモ、何等カ航路統制法ナリ、或ハ
船舶管理法ト云フヤウナモノデ規定スベキ
事柄ノヤウナ氣モ致スノデアリマス、殊ニ
此ノ後段ノ「組合員ニ非ザルモ組合員タル
資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從
フベキコトヲ命令ズルコトヲ得」ト云フ此ノ
規定デアリマスガ、是ハ組合員トナラシメ
ナイデ、其ノ儘デ「アウトサイダー」ノ儘デ
殘シテ置イテ、サウシテ組合ノ統制ニ服シ
ロ、斯ウ云フコトヲ命令スルト云フノデア
リマスカラ、隨分變則ナ規定ノヤウニ思フ

ノデアリマス、此ノ事ハ此ノ組合法ノ十四
條デアリマスカ「組合員ニ非ズシテ組合員
タル資格ヲ有スル者ヲシテ海運組合ノ組合
員タラシムルコトヲ得」ト云フ規定モアル
ノデアリマスカラ、此ノ十四條ニ依ッテ之
ヲ一旦組合員ト強制的ニシテ置イテ、而シ
テ此ノ組合内部ノ規定ニ依ッテ之ヲ統制シ
テ行クト云フコトノ方ガ妥當ナコトノヤウ
ニ思フノデアリマスガ、如何ナモノデアリ
マセウカ、現ニ此ノ同ジ規定トモ思ハレル
造船事業法、是ノ三十條ノ規定ヲ見マス
云フト、三十條ノ後段ニ於テ「命令ノ定ム
ル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資
格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合員タラシムル
コトヲ得」ト云フ規定ガアルノデアリマシ
テ、「アウトサイダー」ノ儘ニ殘シテ置イテ、
組合ノ統制ニ從ヘト云フコトヲ命令スルコ
トニナッテ居ナイノデアリマス、此ノ造船事
業法ノ規定ト、海員組合法ノ規定トチヨット
内容ガ違フヤウデアリマスガ、特ニ之ヲ違
ヘラレタ理由ガアルノデアリマセウカ、其
ノ邊ノコトヲ併セテ御伺ヒシタイ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 前段ノ御尋ニ
付キマシテハ、大體ニ於テ御話ノヤウニ此
ノ組合ト致シマシテハ、組合ノ自治的活動
ニ依ッテ其ノ目的ヲ達シテ行クベキモノデ
アルノデアリマスルガ、併シ非常ニ例外ノ
場合ニ於キマシテハ、海運業ノ如キ非常ニ
複雑ナ仕事ニ於キマシテハ、ナカ／＼ソレ
デ行キ兼ねル場合ガアルノデアリマス、大
型船ニ付テモサウデアリマスガ、殊ニ機附帆船
デアルトカ、或ハ帆船デアルトカ、サウ云フ種
類ノモノモアルノデアリマシテ、殊ニ機帆船ナ
ドニナリマス、北海道ノ機帆船ガ臨時ニ
瀬戸内海ヘヤッテ來テ、若松カラノ石炭ノ輸
送ニ從事シマス、全然ソチラノ方ノ組
合ト關係ノ無イ機帆船ガヤッテ來テ仕事
ヲスル場合ガアルノデアリマス、サウ云フ
場合ニ於テ、サウ云フモノノ爲サヤリ方ト
云フモノガ、假令ソレハ少數デアッテモ、市
場統制ヲ攪亂致ス場合ガ非常ニ多イノデア
リマスカラ、ソレデ「アウトサイダー」ニ對
シマシテモ運賃、備船料等ニ關シマシテ、
組合ノ統制ニ服スベキ命令ヲ爲シ得ルコト
ニ致ス必要ガアルノデアリマス、又組合員
ト致シマシテモ、單リ組合ノ規定致シマス
ル自治的ノ定款ニ定メタル過怠金ト云フヤ
ウナモノデシカ統制出來ナイト云フコトニ
ナリマス、是モ例外ノ場合デアリマスガ、
固ヨリ過怠金ヲ支拂フコトハ覺悟ノ上デ、
而モ金儲ケノ爲ニ專念シテ組合ノ統制ト云
フモノヲ蹂躪シ去ラウト云フ者ガ出テ來

ル、而モサウ云フ者ハ、假令數ハ少クテモ
統制ヲ攪亂スル其ノ害ト云フモノハ非常ニ
大キイノデアリマスカラ、左様ナ場合ニ於
キマシテハ、政府ガ組合ノ統制ニ從フベキ
コトヲ命ジ、尙且之ニ從ハザル者ニ對シマ
シテハ本法ノ罰則ヲ以テ臨ミマスルコトガ
必要デアリ、サウシテ初メテ組合ノ統制ナ
ルモノガ十分ニ行ハレ得ルモノデアルト考
ヘテ居ルノデゴザイマス、而シテ又造船事
業法トノ差異ノ出テ參リマスル點ハ、御承
知ノ通り造船事業者ハ數ガ少ク、又其ノ業
態ニ於テ地上ニ固著シテヤッテ居ルノデア
リマシテ、其ノ性質ナリ事情ナリヲ大イニ
異ニ致シテ居リマスカラ、造船事業者ニ付
キマシテハ、其ノ組合關係ニ於キマシテモ
「組合員タラシムルコトヲ得」ト云フダケデ、
其ノ目的ヲ達シ得ルノデアリマスガ、海運
業ニナリマス、帆船、機帆船等他ノ地區
ノモノガ非常ニ離レタ他ノ地區ヘ行ッテヤ
ルト云フ場合ガ出テ來ルノデアリマスカラ、
ドウシテモ二十二條ノ如キ規定デアリマス
ルトカ、サウ云フ規定ヲ必要ト致ス次第デ
ゴザイマス

○大橋八郎君 二十二條ノ後段ノ「アウト
サイダー」ノ場合デアリマスガ、此ノ「アウ
トサイダー」ノ如キハ、ソレハ組合員ニナ

レト云フコトヲ強制的ニ命令ヲシテ、組合員ニナツタ上デ尙組合ノ統制ニ服シナイ者ハ、前段ノ規定ニ依ツテ組合員トシテ組合ノ統制ニ從フベシト云フ命令ヲ發スルコトガ何故イケンイノデセウカ、唯手數ガ二段ニナルト言ヘバ二段ニナルノデスガ、組合トシテノ體裁ノ上カラ行ケバ其ノ方ガ形ガ良イヤウニ思フノデスガ……

○政府委員(伊勢谷次郎君) 只今例ヲ舉ゲテ申上ゲマシタ北海道ノ組合ニ入ッテ居ル機帆船ガ、瀬戸内海ヘ行ッテ仕事ヲ致シマスヤウナ場合ニ、瀬戸内海ノ方ノ組合ヘ入レト云フコトニシテシマウコトガ、必ズシモ適當デナイ場合ガ起ッテ來ルコトガ相當アルト思ヒマス、二月ナリ三月ナリ其方ヘ行ッテ仕事ヲシテ、又後ハ根據地ノ方ニ歸ッテ行クト云フ移動性ノアルモノデアリマスカラ、必ズシモ適當デナイト云フ場合ガアリマスルノト、又他ノ一面ニ於キマシテ、組合ノ事業ハ、單リ統制バカリデナク共同施設ト云フモノガアルノデアリマス、デアリマスカラ、ドウシテモ組合ニハ入ラナイノデアアルガ、組合ノ統制ニハ服スルト云フコトヲヤラセル必要ガ起ッテ參ルト思フノデアリマス、若シドウシテモ組合ニ入レト云フコトニナリマス、結局ハ一ツノ事業者ガ北

海道ノ組合ニモ入り、瀬戸内海ノ組合ニ入ルト云フコトガ出來テ來ルバカリデナク、或ハ共同施設ト云フヤウナコトニ付キマシテモ、相當ノ負擔ヲ兩方デ負ッテ行カナケレバナラスト云フコトニナツテ、海運業ノ自由ナ健全ヲ發達ヲ圖ッテ行キマスル上ニ於テ、相當差支ガ出來テ來ル場合ガアルト考ヘテ居ル譯デアリマス

○大橋八郎君 只今例ニ舉ゲラレマシタ北海道ノ船ガ瀬戸内海ヘ來テ、瀬戸内海ノ統制ヲ紊スト云フ御話ノヤウデアリマスガ、二十二條ノ「組合員ニ對シ又ハ組合員及組合員ニ非ザルモ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ其ノ組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得」ト云フ、其ノ組合ノ統制ト云フモノハ、組合員タル資格ヲ有スル其ノ組合ノ統制ト云フ意味ダラウト思ヒマス、サウスルト今例ニ舉ゲラレタ場合デモ、北海道ノ船ニ對シテハ、北海道ノ組合ノ統制ニ服スベキコトヲ命ズルコトガ出來ルダケデ、瀬戸内海ノ……組合員タル資格ノ無イ土地ノ組合ノ統制ニ從ヘト云フコト迄ハ命ジ得ルノデヤナイヤウニ思ハレマスガ、此ノ點ハドウナノデスカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 其ノ組合ノ統制ト申シマスノハ、仰シヤル通りデゴザイ

マス、併シドウシテモ組合ニ入ラナケレバナラスト、斯ウ云フ方ノミデ行キマスルト、組合ノ事業ガ統制バカリデナシニ、共同施設ト云フ風ナコトモアリマスルノデ、チョット酷ニ過ギル場合ガアルト思ヒマスルカラ、矢張り非組合員ニシテ組合ノ統制ニ服セシムル場合ガ必要デアル、斯様ニ考ヘマス

○岩田宙造君 チョット今ノ點ニ關聯致シマシテ、今組合員タル資格ヲ有スル者ト云フ中ヘハ、此ノ第三條ノ第二項ノ政府ノ認可ヲ受ケテ組合員トナルコトノ出來ル者ハ入ッテ居ルノデアリマセウカ、ドウナンデアリマセウカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 三條ノ第二項ノモノハ入ッテ居ラナイ積リデゴザイマス

○岩田宙造君 サウ致シマスルト、組合員タル資格ヲ有スル者ノミデナクシテ、組合員タル資格ヲ有ッテ居ラス者デモ、日本内地ヘ來テ此ノ同ジ海運業ヲ營ム者ニ對シテハ、其ノ統制ニ從フ命令ヲ出ス必要ガアル場合ガアルノデアリマセウカ

○政府委員(伊勢谷次郎君) 實際上ノ必要ハ只今仰セノ通りデゴザイマス、デアリマスルガ故ニ、海運ニ關シマシテハ、内外地ノ行政統一ト云フ風ナコトガ非常ニ必要ニ

ナツテ參ルノデゴザイマスルガ、只今ノ處行政機構ガ異ッテ居リマスル關係カラ致シマシテ、左様ナ場合ニ於キマシテハ、内外地各行政官廳ガ連絡ヲ取りマシテ、各、其ノ地方ノ統制ニ服セシムルヤウニ處置致ス考デゴザイマス

○委員長(伯爵後藤一藏君) ソレデハ今日ハ此ノ程度デ散會致シタイト思ヒマス、午後ニ續イテヤル積リデ居リマシタケレドモ、速記ノ都合ガ惡イサウデゴザイマスカラ、明二十三日ノ午後一時半カラ開キタイト思ヒマス、尙政府ニ御願ヒ致シテ置キマスガ、商工大臣ハ鑛山局長カ、又ハ鐵ノコトニ付テ説明ノ出來ル方ヲ連レテ來テ戴キタイ、ソレカラ陸軍大臣ハ對滿事務局長ヲ帶同シテ來テ戴キタイ、ソレカラ商船學校關係デハ文部省ノ政府委員ノ方ニオ出デヲ願ヒタイ、是ダケ御願ヒシテ置キマス、ソレデハ是デ散會致シマス

午後零時四分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵後藤 一藏君
副委員長 男爵深尾隆太郎君
委員 子爵秋元 春朝君

公爵山縣 有道君
子爵秋元 春朝君

子爵米田 國臣君

子爵秋田 重季君

大橋 八郎君

男爵井上 清純君

男爵大藏 公望君

橋本圭三郎君

坂野鉄次郎君

堀 啓次郎君

石川 三郎君

橋本辰二郎君

岩田 宙造君

松岡 潤吉君

村田 省藏君

政府委員

文部省實業學務局長 小笠原豐光君

逓信政務次官 平川松太郎君

逓信省管船局長 伊勢谷次郎君

昭和十四年三月二十四日印刷

昭和十四年三月二十五日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局